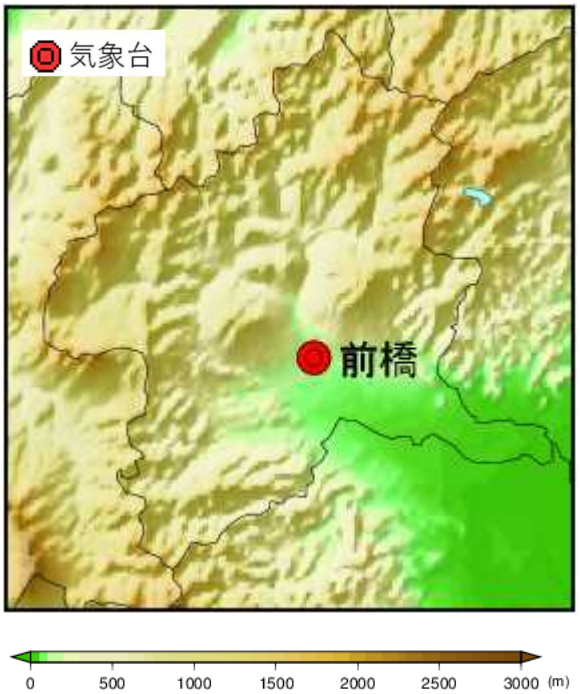
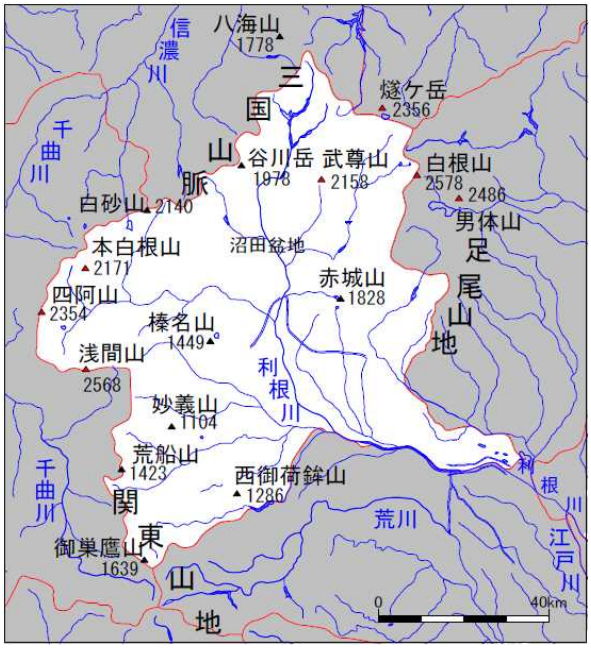
群馬県





群馬県の地勢

群馬県は本州のほぼ中央に位置し、南東部を嘴（くちばし）にして、両翼を広げて空を舞う鶴の姿の形状をし、約 3 分の 2 が丘陵山岳地の内陸県である。総面積は 6,362km^2(全国第 21 位)で関東地方では第 2 位の広さを持ち、南東部の関東平野に連なる標高 10m の平地から、北部上信越県境の 2,000m 級の山岳地域まで起伏の多い複雑な地形が展開している。

標高別に見ると 100m 以下の土地は県全体の 10%、500m 以上の山地は約 70%を占めている。

山地の多い群馬県では、県の北西部から北部にかけては四阿山(あずまやさん)(標高2,354m)、本白根山(もとしらねさん)(標高2,171m)、北東部から東部にかけては武尊山(ほたかやま)(標高2,158m)、足尾山地(あしおさんち)、南西部から西部にかけては荒船山(あらふねやま)(標高1,423m)、浅間山(標高2,568m)、県中央部には赤城山(標高1,828m)、榛名山(標高1,449m)等がそびえている。

このような起伏に富んだ地形で火山も多く、観光地や温泉地としての名所となっている。

また、北部の三国山脈(みくにさんみゃく)、東部の足尾山地、西部の関東山地等の高い山々により三方を取り囲まれ、南東部のみが関東平野に向かって開けている独特の地形は、夏の雷や冬のからっ風など県特有の気候に大きな影響を及ぼしている。

群馬県の気候

群馬県は日本列島の脊梁(せきりょう)山脈の太平洋側に位置しているため、その気候は大まかには太平洋岸気候区に分類される。しかし、群馬県の位置、地形、標高から県内各地域の気候にはさまざまな違いがある。

冬季は平野部で乾燥した晴天となる日が多くなるが、上空の寒気が強くなると降雪となることもある。北部や北西部の標高の高い所では雪の日が多く、上空の寒気が強ければ大雪となることもある。

夏季の最高気温は全国的に見ても上位に入ることが多く、猛暑日となる日も多い。地面付近の気温が高いことから大気の不安定な状況となりやすく、夏季の雷の発生が多い。8 月中旬を過ぎると太平洋高気圧の勢力が衰え始め、雷の発生も少なくなる。

このように県内は、山岳地域の標高が 2,000m を超える一方、南東部の平野部の標高が数 10m と差が大きく、山岳特有の気候から平地の気候までみられるのが特徴である。

地形データには USGS（アメリカ地質調査所）の GTOPO30 を利用した。